

# MORIOKA YMCA NEWS

盛岡YMCAの使命

私たち、盛岡YMCAは、イエス・キリストによって示された生き方に学びつつ、豊かな自然と歴史的伝統に満ちた岩手の地で、子ども、家族、地域とともに公正で平和な世界の実現を目指します。

1. 子どもたちの個性を大切に、それぞれの夢や希望、生きる力を育みます。
2. 家族の絆といのちの大切さを深め合います。
3. 共に生きるために、異なった文化、多様な価値観と出会う場を提供します。

2013年10月号 宮古の海へ！！



発行人：濱塚有史 編集人：家村知佳 発行所：特定非営利活動法人 盛岡YMCA 岩手県盛岡市本町通3-1-1  
TEL 019 (623) 1575 e-mail: morioka@ymcajapan.org URL: http://www.ymcajapan.org/morioka/

## 「僕の中のYMCA」

森谷 啓 (盛岡YMCAベスト・キッズOB)

みなさんこんにちは。森谷啓です。現在、僕は盛岡農業高校を卒業して、東京農業大学で学んでいます。今回は僕が盛岡YMCAでの思い出や、今後の抱負について語っていきたくと思います。

僕は小学4年生ぐらいから学校でサッカーをやろうようになり、近所の人の誘いもありYMCAに体験入学しました。その時にちょうどカップ戦を開催していて、僕のチームは準優勝になり、うれしかったなという覚えながら覚えています。その時にリーダー達が優しく接してくれて、YMCAのみんなも新人の僕をすんなり受け入れてくれて、アットホームな雰囲気ですごく居心地が良く、ここでサッカーをやりたい！と思ったのがYMCAに入ったきっかけです。

それからベスト・キッズに入り、本格的にサッカーを始めました。日々の練習や大会などにより、みんなで技術を高め、チームワークや協力する大切さを学びました。その中でも「サッカーを楽しむ！」ということが最も大切であり、僕らのチームはピッチの中でも外でも常にうるさく、常にテンションが高かったです。少年サッカー大会で負けた後は脱水症状になるぐらいまでみんなで泣いて、キャンプや合宿では呼吸ができなくなるまで笑って、そういう感情表現が豊かなところが僕らのチームの魅力でした。

その後YMCAを卒業し、みんな違う環境になり、違うサッカーをやり、違うサッカー人生を送っていきましたが、サッカーを楽しむという精神

は常に同じで、それを教えてくれたのがYMCAで過ごしてきた日々でした。僕自身はその後のサッカー人生は思うようにいかず、中学の部活での出場機会はあまりなく公式戦にでれたのも数えるぐらいでした。高校の部活はレギュラーとして出られたのですが、チーム自体があまり強くありませんでした。そんな時もYMCAで学んできたことを活かし、サッカーを楽しみ続け、なんだかんだ充実した良い部活動を送ることができたなど、結果論ながらそう感じています。なので、僕のサッカーの基礎はYMCAであり、心からYMCAを愛しています。

あの時の思い出は今でも僕の中で大きく印象に残っているし、本当に大切な時間をみんなで作ってきたんだなあと感じています。だからまたみんなでサッカーをしたいし、みんなで集まりたいです。この前集まった時はベスト・キッズ監督：伊藤真太郎の結婚パーティーだったので、他のリーダー達が結婚すればと期待しています。

話は変わりますが、僕は東京農業大学に在学し、現在2年生です。(西崎太郎と同じ大学)高校で農業を学び、なぜか農業に興味をもってしまったので東京農業大学に行きました。現在僕は熱帯作物や環境保全などに興味をもち、将来はそれに関係する職業に就きたいというYMCA時代の僕が知ったらびっくりするような目標を持っています。そのため単位を落とさないようしっかりと勉強しているのでみなさん応援よろしくお願ひします。

## 感謝

2013年年度 順不同・敬称略

### ●三十周年記念史賛助会員

- 長岡正彦 竹内一真、水野雄二、田村浩之、伊藤真一郎、岩崎スエ、雲丹谷三千代、今松桂子、森山日菜乃、南原良哉、(株)盛岡ユニホーム、盛岡南ドライビングスクール、井上修三、井上優子、宮崎幸雄、濱塚秋二、阿部靖、倉石昇、岩手トベット盛岡支店、神谷幸男、水田賢次、諏訪治男、名古屋恒彦、山本常雄、吉崎陽、工藤素、中原真澄、加藤明宏、伊藤克見、小林茂元、和歌山YMCA、北田アユ子、角谷晋次、大関靖二、三田弘子、伊藤洋子、伊藤英、伊藤雄基、吉田ひろ子、吉崎一之、石崎稜、朴正浩、山本英志、花田暉、千葉代子、佐藤翔、吉本貞一郎、木下恵合子、及川忠人、及川茂夫、大和田浩二、菊池崇江、小畑孝子、朴正浩、飯島隆輔、孤淵光彦、熊谷太、越前谷洋子、清水弘一、池田勝一、深澤秀男、古澤伸、濱塚有史、花松行雄、守下昌輝、重石桂司、長谷川精一、人見晃弘

### ●東日本大震災被災地支援募金 献品

- 二原良哉、林間つきみ野教会、味噌菓子、飯詰子、日本アーツイストユニオン、茨城YMCA、宮古市魚菜市場青年部、菊池崇江、林間つきみ野教会、大阪YMCA松尾台幼稚園、木下恵合子、六甲学院、伊藤真一郎

### ●維持会費

- 花田暉 角谷晋次、角谷千代子、山澤美和、松尾聡子、石崎一之、池田二郎、佐藤翔、高瀬裕彦、杉田弘美、長岡正彦、名古屋恒彦、熊谷力實、大関靖二、熊谷太、和田周吾、及川茂夫、及川恵一、戸真文、早坂春希、伊藤克見、鬼柳忠彦、濱塚れい子、清水弘一、吉崎陽、坂春希、伊藤克見、鬼柳忠彦、濱塚れい子、清水弘一、吉崎陽、陽、重石桂司、川守田浩、工藤直子、田村治之、北田アユ子、熊谷一郎、岩崎スエ、今松桂子、齋藤稜太、桑原良幸、増田隆、佐藤淳史、佐々木多恵、守下昌輝、水田賢次、石渡隆司、今野健男、今野聖子、地裁翔、清水治彦、濱塚有史、濱塚真美、濱塚真一、長谷川精一、井上修三、井上優子、井上浩太郎、島岡孝匡、伊藤真一郎、小山憲彦

### ●寄付金

- 花田暉、佐藤翔、高瀬裕彦、杉田弘美、古和田周吾、及川茂夫、及川恵一、戸真文、早坂春希、伊藤克見、清水弘一、吉崎陽、川守田浩、中屋重正、今松桂子、増田隆、水田賢次、石渡隆司、今野健男、今野聖子、濱塚有史、濱塚真美、重石桂司、井上修三、伊藤真一郎、小山憲彦

子どもが作る物語  
「クルンきゅうしゅつ大さくせん」②  
作：佐々木 拓実 (ぶらいむ・たいむ本町校) 桜城小2年

あんまりはやかっただので、5分くらいでできのしろにつきました。「クルンはどこかな。」  
そうがんきょうでみると、「あんなところに！！いそがないとおちてしまう。」  
もんもカギがかかって入れません。すると、ちかくにえんぴつがおちていました。「まさか。」  
ギーガチャ。なんとそのえんぴつがカギだったのです。「よし。いくぞ。」  
入ってみるといきなり、ガコン！おとしあながさどうしました。「ええええええええ！？」  
でも、下はふんわりふわふわクッションです。どうやらはんには「おれのしろにくるくらいならたぶんあのおとしあなに気がつくはずだ。だったらあのおとしあなをほんとうのみにすればいい。」と思ったのでしょう。  
でもブクブクは、おとしあなに気がつかなかったため、ほんとうのみにすすむことができた、ということなのです。  
どんどんすすむととびらがあつて、そこにはこんなえがかいてありました。  
でもブクブクはそんなの見てはいません。さっそくとびらをあけると、「うわあああああ！！」  
…つづく。

挿絵：たくみ

こほれ種31  
「時に追われる時、思うこと」  
日本基督教団内丸教会牧師(元日本YMCA同盟 主事) 中原 真澄

夏が過ぎると直き、秋から冬のプログラム準備や実施に追いまわされがちとなります。年間行事の定まった組織(家庭もその一つでしょう)で働く人は多分「そうそう！」と共感される事でしょう。時間がタイト(余裕が乏しい)になるとつい「忙しい」と口走ります。でも、二つは別物だし、別にしなければならぬと私は思うのです。ときに「忙しい、忙しい！」と、忙しさが自分の価値の証明のように言い立てる人がいます。でも「忙」しいという字は「心が亡くなる」と書きます。時間に余裕がなくても「忙」しくはなりたくない…私はYMCAで働いていた時も今も、そう願ってきまして…なかなかそう成り切れない憾(うら)みがあるのですが。

YMCAで最も大切なのは、どれだけ人が互いを尊重し、育ち合っているか…ということだと思っております。プログラムの目的は(事業的に成り立つことは勿論、大切ですが)この人間関係を通して得る個々人の全人的成長にあります。そのためには、いつでも喜んで人と会い、話を聴くことが優先されねばなりません。決して「忙しいから～」と、訪ねてきた人を追い返してはなりません。

子どもと一緒に過ごす大人(親や教師)も皆、そうだろうと思います。子どもが体を寄せて話したそうにしたら、その時にしていることは脇に置き、短くてもいい、真剣に耳を傾けることが大切です。「あとで！」と言いたい時が多いのですが、それが繰り返されると、子どもに「自分は尊重される存在ではない」というメッセージを刻みつけてしまいます。

イエスは多忙な時も、僅かな一時、人の思いと訴えを聴き、言葉を交わすことに、何より大きい養いと喜びを見出しました。私たちもそうありたいと願います。

イエスは旅に疲れて、そのまま井戸のそばに座っておられた。…(水くみに来たサマリアの女と豊かな会話をした後に)弟子たちが「ラビ(先生)、食事をどうぞ」と勧めると、イエスは「私にはあなた方の知らない食べ物がある」と言われた。(ヨハネ福音書4章6～31節)

10月・11月予定

- ★10月13日(日)  
10月サンデースクール  
「ぎょうざパーティー」  
(於：おでつて5F生活アトリエ)
- ★10月20日(日)  
10月アドベンチャー  
「なに焼くの？いもでしよ!!」  
(於：外山森林公園)
- ★10月26日(土) 13:30～  
盛岡YMCA創立30周年記念式典  
(於：岩手県産業会館大ホール)
- ☆11月3日(日)  
チャンピオンズカップ  
(於：岩手県立大学サッカー場)
- ☆11月10日(日)  
11月サンデースクール  
「キラキラ万華鏡作り」  
(於：YMCA本町センター)
- ☆11月17日(日)  
11月アドベンチャー
- ☆11月23日(土・祝)  
街頭募金 (於：盛岡市街地)

水泳教室・サッカースクール  
休講案内

- 10月29日(火) 火曜水泳
- 10月30日(水) 水曜水泳
- 10月31日(木)  
松園・本宮サッカースクール



～表紙の写真より～

9月21日 宮古ボランティアセンターでのアドベンチャークラブでの写真。念願の海のプログラムが実現しました。海で育った子どもたちが震災の影響で海を嫌いにならないでほしい。そのような願いの元、海でのプログラムの実現をずっと目標にしてきました。震災直後からのボランティア活動で地元NPO「いわてマリニフィールド」さんと出会ったこと、また、この2年間で合計16回に及ぶ、野外活動を実践してきたこと等ひとつひとつ積み重ねてきたことが実を結んだと思います。これからも宮古の子どもたちが野外活動を通して、自然の中で様々な出会いと気づきをすることによって成長していくことを願い、活動を行っていきます。(濱)

# ☆かもめの玉子セーラーカップ☆

8月31日から9月8日まで、かもめの玉子セーラーカップ第40回岩手県サッカー部スポーツ少年団大会が八幡平市で開催されました。盛岡YMCAベストキッズも参加し、全力で戦ってきました。今大会で6年生が最後の公式大会ということでメンバー入りしている選手はもちろんのこと、メンバー外の選手も試合前日までの練習で気合が入っている様子も見られました。

大会初日緊張の中、本町センターに集合し出発しました。会場へ着いてからは自分たちで時間を見て、今何をしなくてはいいのかな、試合時間までどのように過ごすかを判断していました。試合結果的には1勝3分1敗でグループリーグは突破できませんでしたが、試合を重ねるたびに戦う気持ち、このメンバーで1試合でも多く試合をしたいという気持ちが大きくなっていき、最後の試合では見ている人たちを感動させることのできる試合を出



子どもたち自身で試合の作戦を考え、組み立てていきます。



キックオフ。熱い戦いがここから始まります。



↑ 体をぶつけ合い、激しいボールの奪い合いです。



↑ ハーフタイム。頭の中を整理させ、後半戦へ挑みます！



← 盛岡YMCA ベスト・キッズ かもめの玉子セーラーカップメンバー

## 9月アドベンチャー 『ふるさとの秋をプレゼント』

9月のアドベンチャーは岩手の寒い寒い冬を迎える前の最後の1泊キャンプです。9月21日(土)～22日(日)に18名の子どもたちと8名のリーダー・スタッフで秋田県の「思い出の潟分校」へ行ってきました。今回の一大イベントといえば「秋の味覚でクッキング♪」。各グループで食材の買い出しからスタートです！どのグループも悩みぬいてメニューと食材を決め、協力して調理に取り組んでいました。子どもたちが作ってくれた料理は、栗ごはん、五目釜めし、秋カレー、秋の食材天ぷら、鮭の味噌汁です！どれもこれも工夫を凝らした絶品ばかり☆みんなで分け合いながらお腹の中から秋を存分に感じました。さらには、自分たちの料理を食べてもらおうと、大きな声で料理のアピールをし、売り込む子どもたち。祭りのような騒ぎで、とても楽しい時間でした♪ また、潟分校は自然がたっぷりなところも魅力の1つ。外に出ればバッタ、カマキリ、トンボ、カエル、魚などの生き物たちにすぐ出会えます。

あっという間に虫ごがいっぱいになるほどです！他にも学校ごっこや宝探し、ドッチボールなど、学年やグループにとらわれず、夢中で遊ぶ子どもたちとリーダーたちでした！掃除や荷物の片づけといった作業も、協力して動き、いい働きっぷりを見せてくれました！

(家村)



# 盛岡YMCA宮古ボランティアセンター 9月報告書

## ＝宮古の海へ！！＝

9月はアドベンチャークラブが2回ありました。9月7日(土)の「閉伊川で遊ぶ」21日(土)の「カヌー体験」(天候不順で7月からの振替え)です。

7日、閉伊川では水温が低く、ライフジャケットを着ながら閉伊川の流れに身を委ねる体験は出来ませんでした。閉伊川漁協のみなさんが準備してくださったヤマメの放流やアユ・ヤマメの串焼きをいただくことができました。20センチはある魚を丸ごとムシャムシャかぶりつき、3匹も食べる子もいました。中にはあの姿のままで食べ慣れていないので残す子もいましたが、貴重な体験でした。また、整体調査のための魚の目の下に特殊な顔料を注射する体験もでき、岸から眺める閉伊川と違った魅力を「遊ぶ・食べる・学ぶ」充実した活動でした。

21日、カヌー体験も宮古市磯鶏のリアスハーバーで最高の天候の元、海に出ることができました。初の航海、長いパドルに苦戦しながら戸惑いがちでしたが、波の感触を船底から感じながら思い思いのパドルングを楽しみました。その後もエンジンボートで浄土ヶ浜や重茂半島の先まで行き、そと海の大きなうねりを楽しみながら潮風をいっぱい受けて、全身で海の素晴らしさと自然の大きさを感じました。ウミネコと一緒に疾走する船は、まるでウミネコになり、一緒に飛んでいるようでもありました。岸に上がってからも水産センターの方から海の生態系や藻場の大切さなどをレクチャーをいただき、ここでも貴重な体験と学びができました。

閉伊川のプログラムでは閉伊川中学校・東京海洋大学や閉伊川漁協のみなさん、カヌー体験では岩手マリフィールドや宮古水産高校のみなさんほか、大勢の方のお力添えのおかげで、子どもたちへすばらしいプレゼントができました。宮古の子どもたちが地元を一番よく知る地域の方によって、宮古の魅力(山・川・海)が子どもたちに伝わり、育まれていく。当たり前のことですが、大切なものを学ばせていただきました。これからも更に多くの子どもたちが参加してくれればと思います。

宮古ボランティアセンター長 木田 泰之



↑ 余裕のピース！最初は上手く進めなかった子どもたちも、あっという間にコツをつかみスイスイ進めるようになりました。



↑ 最後はみんなで記念撮影。ハイ、ポーズ！

## 蕎麦打ち体験&試食

盛岡ワイズメンズクラブの方々や蕨川の体験農場で蕎麦の栽培を始めて今年で5年目を迎えました。そして、毎年収穫した蕎麦を使い、10割蕎麦を打ち、その味を堪能するのです。この蕎麦打ち体験と試食会にはいつも盛岡YMCAのリーダーやスタッフも招待して頂いています。今年も9月25日(水)にこの会が開かれ、10名のリーダーが参加してきました。

蕎麦打ちはワイズの方の丁寧な指導のもと、リーダー達が行っていきます。お湯を加え、休ませて、水を足してよくこねる。丸めてから伸ばす。それを細く切っていくのですが、この繊細な作業が難しい!! そうめんのように細いや、きしめんのようなおデブまで、個性豊かな手打ち蕎麦でしたが、どれも絶品でした。リーダー達は、自分の蕎麦が1番だと言いつつも、蕎麦の味に感動していました。

しかし、ワイズの方々や蕎麦打ちの指導をして頂いたこと、蕎麦を美味しく食べるために美味い材料や薬味、付け合わせの天ぷらまで用意して頂いたことを忘れちゃいけません！皆さんにも感謝して、ごちそうさまでした！



↑ ちよつと濁ってしまいましたが、この後プカプカ浮きながらシノーケリングを楽しんでいました。だけば咳き込みながらも楽しんでいましたよ



↑ 青の洞窟です！ちよつと光の加減で上手く撮影できませんでした。子どもたちは大喜びです！この後、浄土ヶ浜を巡り、外海(重茂半島端)まで行ってきました。穏やかだった海が突然大波に変化し、子どもたちもビックリでした。